

# 令和8年度 第1回 学校運営協議会 議事録

令和8年5月22日（金）15:00～16:30

本校 玄海アクアリウム

## ○校長挨拶

- ・県内ほとんどの学校が運営協議会または近い委員会を組織している。
- ・学校の今後について、意見等いただけたらと考えている。

## 1 委員について

### ①委員委嘱（校長）

- ・今年度末までよろしくお願ひしたい。
- ・全国募集で多くの生徒が来てくれていることもあり、幅広い委員さんにお願ひをしている。

### ②会長、副会長選出・会長挨拶

（校長）

- ・【学校運営協議会規約】第6条（P.4）に基づき、会長選出の必要がある。
- ・昨年度に引き続き、岩崎教育長にお願ひをしたい⇒承諾

（会長挨拶）

- ・精一杯努めていきたいと思っているので、よろしくお願ひしたい。
- ・コンソーシアムの発足から、青翔高校は様々な取り組みを行っている。これから「新しい青翔高校」を作っていくにあたって、助力になればと思っている。
- ・玄海みらい学園もいろいろな活動を行っていて、青翔高校とも連携を深めていきたい。

（校長）

- ・今年度初めて委員をお願ひした方が2名いらっしゃる。（2名紹介）
- ・もう1名は別の会議に本日出席されているため、本日は欠席である。
- （委員A）青翔高校の一助となれることに喜びを感じており、頑張っていくたい。

（校長）

- ・副会長を選出する必要もある。
- ・これまでは教育振興会会長に副会長をお願ひしていたが、今年度もそれで良いか⇒承認

## 2 学校運営協議会について説明

- ・【設置の趣旨・目的】（P.3）より説明

## 3 学校魅力づくりについて

### ①スクールミッション・スクールポリシー（校長）

- ・今年度からeスポーツ学科を新設したことにより、スクールミッションおよびスクールポリシーも変更する必要があると考え総合学科と共通する部分とそれぞれの学科にあったものの3つを作成した。
- ・eスポーツ学科はeスポーツのプレイスキルに焦点が当てられがちだが、デザインや配信など、分野に関わる広い知識・技能を身に付けさせることも目的となっている。
- ・その他、記載していることを確認していただければと思っている。

## ②学校評価計画について（各担当）

### ア 学力の向上

（教務部）

・学力の向上については、毎朝 15 分間青翔タイムを実施し、主に中学校内容の学び直しを行ったり、ICT 機器を積極的に利活用したりすることによって、目標達成を目指している。

・最近では AI の活用が進んでおり、e スポーツ学科の授業を中心として、授業内でも AI の活用を取り入れている。生徒にも AI 活用の知識・技能を身に付けさせていきたい。

### イ 心の教育

（教務部）

・心の教育と聞くと道徳の授業のようなものをイメージされがちであるが、実際には各教科の中で育むことができると考えている。

・各教科においてさまざまな教材に触れさせることによって、豊かな心を育てていきたい。

（生徒指導部）

・校内での連携体制はもちろん、外部機関との連携体制も確かなものとして、連携を密にすることによって、生徒の意識を高めていきたい。

・今年度は青翔タイムで情報モラルに関するワークシートに取り組むことによって、SNS の使い方などを徹底させることを目指していきたい。

・生徒を対象として定期的にアンケート調査を実施していく。

### ウ 健康・体づくり、特別支援教育の充実

（保健部）

・今年度、健康診断後の治療勧告の受診率を 30%以上にすることが目標。

⇒低いように思われるかもしれないが、現状として各健診後の受診率が 10%前後に留まっているため、本校にとっては高い目標。

・就職や進学にも関わってくることであるため、HR で周知をしたり、個人的に繰り返しアプローチを行ったりしていく。

・来年度から通級指導を始められるように、通級に関する研修会に出来る限り参加している。

### エ 業務改善・教職員の働き方改革の推進

・別途報告・協議

### オ キャリア教育

（進路指導部）

・進学について、専門学校が主な選択肢となっており、大学に挑戦する生徒が少ないという課題がある。

・昨年度から e スポーツ学科の出口をどうするかということを考えており、いろいろな学校や企業と協定を結んだり視察に赴いたりしている。

・西九州大学に加え武雄アジア大学とも提携を結び、県立大学からも推薦枠を頂けることになっているので、これまで以上に大学進学に向けた教育体制の構築を行っていきたい。

### カ 唯一無二の誇り高き学校づくり／広報の充実

（主幹教諭）

・5/23（土）に管理職が糸島イオンモール、主幹教諭・e スポーツ学科主任・コンソマネージャーがオンラインで学校説明会。

- ・今年度から青翔ニュースを「青翔で青春」に変更し、中学生への配布を増やすことにしている。
- ・県内外から多くの生徒に来てもらえるように広報を行っていくと同時に、今の青翔をより魅力的なものとしていくために取り組んでいきたい。

### ③学校における、働き方改革の取組内容、取組みの実施状況等について報告（教頭）

- ・資料のとおり（P. 11）

## 4 協議 質疑応答・意見交換

### ①学校評価計画について

○寮や交流拠点の整備状況、今県外から来ている生徒の状況はどうなっているか。（会長）

- ・寮は7月から建設開始するが、今年度の募集店員は男子6女子2程度で考えている。（主幹教諭）
- ・現在他の場所で暮らしている生徒についても寮に移りたいと申し出る可能性があるので、定員を設定して調整していく必要がある。（主幹教諭）

・家賃や間取りなどに関する資料を受け取ったので、これから広報に向けて準備を進めていく。（主幹教諭）

・建設場所はグラウンドにある相撲場の横。出入口が道路側に設置される予定となっており、グラウンドを横切るのではなく、道路を歩いて登下校。（校長）

・シェアハウスの生徒については、少しずつ生活に慣れてきており、これから生徒の成長に向けてどのようなことができるかということを考えていきたい。（主幹教諭）

○アクアリウムの活用について、どのように考えていくか。（会長）

・最近水槽を運用開始することができた。将来的にはアクアリウムを外部に公開したいと考えているが、配管工事の関係でまだ外に足場が組まれており、近々での公開は難しい。（主幹教諭）

・教育コーディネーターの北林さんを中心に据えて、地域との交流を進めていきたい。（主幹教諭）

・別件になるが、韓国文化系列もみらい学園生との交流を望んでいるので、より一層の交流や連携を促していきたいと考えている。（主幹教諭）

・現在、私の所から魚を貸し出したり、コンソーシアムマネージャーが捕ってくれたりした魚を入れているが、ゆくゆくは生徒が自身で捕ってきた魚を入れて欲しいと考えている（循環型のアクアリウム）。その体制を構築する中で、地域との連携をより密にしていくことが大切だと考えている。（委員B）

○遠方の県外生について、三者面談などはどのようにしていくのか。（委員C）

・3年のみらい留学生はオンラインでの三者面談を行っており、1年生も同じように実施予定。（eスポーツ学科主任）

○ローカル5Gが頓挫したことが何か影響しているか。（委員D）

・eスポーツ学科用に1Gの独自回線を引いている。現状として大きな問題はないものの、イベントや大会などについては不安を抱えている。（eスポーツ学科主任）

・元々eスポーツ学科用に5Gを引く予定はなかったが、町でのイベントであったり、スマート農業であったりと、外で活用していきたいと考えていた計画は実現が難しくなっている。（主幹教諭）

・「ローカル5Gがあるからeスポーツ学科を立ち上げる」という論理を持たれている人もいまだ少ない。本来は、生徒数が減少している状況において、eスポーツに関わる取り組みを行うことによって、たくさんの生徒が来てくれるのではないかとという構想があったはず。町が学校に迷惑をかけてしまったのではないかと懸念されている方がいる。（委員D）

・ローカル5GをきっかけとしてIT系の企業を誘致できるのではないかという構想や、町のイベントなどで活用していくという構想はあったものの、直接的な影響があるわけではない。(主幹教諭)

○学校評価計画について、数値目標はどのようにして設定しているのか。たとえば、「ア 学力の向上」において「ICT機器やAIを活用している教員を70%以上にする」とあるが、生徒全員がタブレットを持っている状況を考えると、低いのではないかと感じる。(委員E)

・各担当が現状に即して設定している。ICT機器やAIの活用については、活用を推進してはいるものの、紙ベースの方が効果的な場面もある。使うことが目的になってしまっているといけないので、そのような数値を設定している。(教務主任)

○NHK佐賀のeスポーツ学科特集はとても良かった。学校の持つ魅力を効果的に広報するために、どのような取り組みを行っているか。(委員A)

・直近で言えば7月の体験入学を生徒たちが自ら企画したり、「佐賀さいこう企画甲子園」に1年生全体で取り組んだり、1年生を主軸として取り組んでいる。(主幹教諭)

・生徒自身は当たり前に行っている活動であっても、外から見れば唯一無二であることもある。是非、学校での学びを広く広報して欲しいと思う。(委員A)

②働き方改革の報告内容をもとに、学校・保護者、住民等の業務分担の在り方、業務の優先順位を踏まえた精選・見直し等について協議

(教頭)

・地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の5の改正により、令和8年4月1日から、学校運営協議会設置校の「学校運営に関する基本的な方針」に、新たに「教育職員の業務量管理」と「健康確保措置」に関する内容を盛り込むことが義務化された。

・そのため、令和8年度以降の学校運営協議会では、「教職員の働き方」「業務負担軽減」「健康確保」についても、学校運営上の重要事項として扱う必要がある。

・各学校は、「学校運営に関する基本的な方針」にこれらを反映させた上で、学校運営協議会の承認を得る必要がある。つまり、今回の法改正によって、「教職員の業務負担や健康確保」は、学校運営協議会が正式に扱うべき法定事項になった。

・1月あたりの時間外労働時間を45時間以内にするのが目標とされているが、4月の時間外労働時間が45時間を超えた職員が15人いた。忙しい時期ではあるものの、改善の必要がある。

・会議の時間を設定して厳守したり、資料を事前配布することによって効率化したりするなど、減らせる業務を減らすことによって時間外労働時間を削減していく必要がある。

・「教員の業務でない業務」を減らしていくことが重要であると考えている。

(校長)

・本校の時間外労働時間が特別長いということではなく、高校全体が抱える課題。

・高校教員同士で話し合うこともあるが、お互いに分かり合える部分も多く、なかなか議論を前に進めることができていない。

・1つの解決策として、1コマの授業時間を50分から45分に短縮し、浮いた時間で部活動を行ったり、教科指導を補充したりするなどして、業務を勤務時間内に終わらせられるように取り組んでいる。

○月の時間外労働時間とは、土日の部活動などについても含めているのか。(委員B)

・含められている活動と含められていない活動がある。(教頭)

・中学校では、土日の部活動を地域にお願いする流れが強い。高校は状況が異なると思うが、できる限り実現できればと思う。(委員B)

○松浦通運ではアルコールチェックをした時点でタイムカードを切り、月当たりの時間外労働時間が随時確認できるシステムになっている。本人が「今月は多いな」ということが認識できるようにすることが大切だと思うが、どのようにしているか。(委員C)

・電子での打刻や入力のほか、ICカードでの打刻もある。(教頭)

・eスポーツ学科の立ち上げやeスポーツ部の活動など、特殊な事情があって特定の教員の時間外労働時間が長くなってしまっている。学校運営協議会は人事に具申する権限もあるので、この場で状況を理解していただき、具申していただくとありがたい。(主幹教諭)

・月当たり45時間という上限から逆算して、部活動の活動時間を設定するなどの工夫を行っていくことが大切ではないかと考える。(委員C)

・時間の工夫はもちろんのこと、そもそもの欠員の解消に向け動き、業務の平準化に動ければと思う。

(主幹教諭) ※この件については、会議終了後別途校長・会長等で話し合い。

○年休の取得目標日数が14日となっているが、この根拠は何か。また、前年度の実績はどのようなになっているか。(委員C)

・県の数値目標を参考に設定しており、昨年度の状況については把握していないものの、14日には届いていないだろう。(教頭)

⇒企業では、前年度の実績に対して改善目標を設定することが多い。県の決定も大切ではあると思うが、「前年度よりも良くする」という意識も同様に重要なのではないか(委員C)

・働き方改革の一つとして、委員の皆様への連絡を個別から一斉に変更してよいか。(教頭) ⇒承認